

# 「照葉のまち」（アイランドシティ）と呼ぼう

- 本市の発展の一翼は西方面のシーサイド百道
- 東方面のアイランドシティ照葉だと思います。
- 百道は、平成元年の「よかトピア」を契機23年の歳月をかけて醸成されました。
- 照葉は、平成17年「まち」開きして、今、街並みが形成されつつあります。
- 皆さんの故郷として、素敵な「まち」となるよう期待します。



今林ひであき  
市政報告

【発行者】
福岡市東区
塩浜一丁目16-25
今林ひであき事務所
TEL. 092-605-6515



- （通称名：アイランドシティ）と呼ぼう
- 一方で、未だに「人工島」と呼ぶ方がいらっしゃいます。
  - 島形式での土地造成の経緯等にこだわる方がおられることは、嘆かわしいことです。この土地に家を建て、新しく住まわれる方々、そして、ここを故郷として暮らす子どもたちの気持ちを考えると悲しい気持ちになります。
  - 照葉に住む皆さん、訪れる皆さん、事業に携わった方々、賛同される市民の皆さんと心一つにして、素晴らしい街「照葉のまち」と大いに呼びましょう。

## 地域コミュニティ支援の条例 町内会支援に4千万円

○地域コミュニティは崩壊の危機です。

市は、条例を新設し、支援に本腰です。

今まで、校区単位の自治協議会に対して支援を行つてきました。

今回、自治協への支援に加えようやく、その基礎である町内会にも目が向き、基本条例と町内会補助金が創設されました。

町内会は、地域コミュニティの最小単位で自治協議会の基盤となる組織です。加入は任意であり、加入メリットが生み出せない現状などから組織率の低下が、進んでいます。

市内には約2300団体の町内会があり

今回の予算措置は4千万円と

1町内あたりに換算するとわずかですが、町内会加入メリットにつながればと思います。

なお、補助金の使途は制限を少なくし、柔軟性のあること、また、補助金支出の報告書類の煩わしさを如何に軽減できるかに、この支援事業の行く末があると思います。

## 脱炭素社会へのチャレンジ

○ウクライナ侵攻によるエネルギー問題もあり、脱炭素社会実現が遠のく状況です。

国は2050年に温室効果ガスをゼロすると言っています。

福岡市は2019年には2013年比で29%削減を達成しています。

言っています。

○しかし、削減内訳は「省エネ12%、原発推進13%、太陽光などの再生E3%」

省エネと原発に頼っている現状です。しかも、省エネなどはすでに限界です。

既存の再生Eへの転換では、皆さんが考えるほどの削減効果は期待できません。

実は、東京都のように、全家庭に太陽光発電を義務的に設置したとしても、数%の削減効果しかないので。

○今後とも、再生Eを中心と捉えるなら、

新技术による発想の転換や大胆な技術革新が必要だと思います。

例えば、海上などでの大規模発電や市長が推進する水素エネルギーなどを検討から実施に移す時期です。

・地域の意見・声を市行政に届けたいとの思いで、

活動してまいりました。

・実現できたことがあります。まだまだ、取組みたいことが、たくさんあります。

・議会質問も、

・市の将来を見た視点  
・地域の大変な視点を

・中心に行いました。

・詳しくはホームページに掲載

・しています。

・これからも皆様方の声を、

・届けてまいりたいと思います。  
・ご意見を聴かせてください。

○議員活動4期を振り返り、